



連身
富流
新式

守
新
式

伊地知文庫
文庫20
233
2



林氏
醫院

伊地知氏書冊
産衣 勇

林氏
醫院

○ 産

▲らいつなり 頼ヲらふとあとのけヲ

▲らふ 子どろびもれし

▲らふ 蘭ヲなり 極ヲし 秋ニし

▲らふ 籠ニも秋ニしかかよむと少月ゆニ葉ヲ

▲らふ 葉ヲとあつた 赤らむる後ニあり

▲らふ 将ヲと結ニとくもくらすニあひし

▲らふ 産ヲ乃ヲ表ニ紙ニ 須ニ乃ヲすすもれく表ニ身ニし

▲らふ 螺ヲ細ニ乃ヲ油ニ 石ヲ史ニ乃ヲととりさニ種ニし

▲らふ 葉ヲ乃ヲ種ニ小用ニ由ニ 後ニ産ニ葉ニにニ何ニ

▲らふ 貝ニおちと後ニ小のそとれニとる

▲らふ 蘭ヲ者ニ 授ニ書ニ神ニとく物ニ乃ニ中ニまニり

上の方友人の居る所し白楽天始以友
 ぬくほ。魚山小松居りて化せる物
 紫香花時錦帳下 魚山ぬ衣茶席中
 後松竹山乃山居ぬく時をてはめて

○着る事此居の物れぬ小海かそへて山時る

▲らんありこ かんよらんらんかん
 ぬれ一まよひ二句絶 ありあり
 付句と絶し 又中ありあり
 かんらんかんかん 一向と絶れ
 ぬらんらんらん 一向と絶れ
 ▲らんらん 一向と絶れ
 中ぬくも二句絶へ。らんらん
 一向と絶れ
 ▲らんありこ 一まよひ二句絶
 ▲らんらん かんらんらんかん
 絶へんし
 ▲廊 后前乃神し 掃こ二句絶
 ▲らんらんらん かんらんらんかん
 絶れんし

▲らんらんらん かんらんらんかん
 絶れんし
 ▲らんらんらん かんらんらんかん
 絶れんし
 ▲らんらんらん かんらんらんかん
 絶れんし
 ▲らんらんらん かんらんらんかん
 絶れんし

○去

▲水室 水室打し 水室付の
 ▲室乃戸 又敷し 此居る 此打
 或は味い。又か 居る打或は
 守ニ面と絶へ。らんらんらん
 ▲室乃八橋 中堅四乃居る 山於ぬ
 ありぬ色絶と室ニ面絶れぬ
 一をいぬ 室乃八橋乃絶れぬ
 聖中ぬ絶れぬ 室乃八橋乃絶れぬ
 乃絶れぬと室乃八橋乃絶れぬ

〇いそふさのさかちとてさふの八幡舟燈あつて
 〇下町やさうな橋ふと燈のひともとて今社にたれ
 法蓮寺内大長門乃奇合小女房後陣
 〇後と體室乃八幡の燈も也燈三塔の鳥ももるか
 〇さふ基後乃燈と燈乃みりて飛舟
 〇さふもくく松乃燈あつてさうなる也
 ▲室乃くやと色 此屋和ニ太田ひりて後
 ▲室本 枝かた本し
 ▲室乃とも春 人痴し極めし
 ▲藤 花と藤とくのみまし本らあり
 花さぬ。まて同無云うの本とて花の
 〇いそふさし。吳中。只の羅し流るるも
 ▲室し 花乃のたれし
 ▲鞭打 打乃ま二句し 兼も
 ▲ひりく と云何時なとて二もさへし
 ▲ひりて 古へはし古とてあつれ
 燈へは何と色も極し
 ▲首ニ 起やも極し
 〇いそふさのさかちとてさふの八幡舟燈あつて

▲向の字 〇是れ二程とて一〇是れ物と云
 ▲向ニ 連二句し 関連へ月小向ふか
 〇是れさし。吳中。向連三句は儀二句し
 ▲連の字 物替く二もさへし 實際
 〇さく物連の舟と連舟の舟
 ▲連乃云 尺取し
 ▲膳云 又 調子さし 秋分し 燈し 観
 〇さし 松云ニ折し 松燈
 ▲六と云字 折し 只六乃まし
 ▲六乃字 と云何 尺取し 六字是号の連
 ▲六乃尺 尺取し
 ▲六乃基 高れ尺取し 又六乃花ささ
 ▲六回 高れし
 〇是れ川まてはゆかたの舟月八回のもむる也
 ▲胸乃月 尺取し 秋分 燈 秋ニ燈
 〇月ま七句し。但し句ニ依て西乃月ニ燈
 ▲胸乃燈 燈乃打越火付へり
 〇吳中ニ流り物 二句まき

▲胸乃骨 秋し 俗に打紙

▲胸 二句し。又情も二句し

▲胸 二句し。此はどなたの詩か

▲びわく 二句し。此はどなたの詩か

▲臺の字 二句し。此はどなたの詩か

▲びわく 二句し。此はどなたの詩か

▲びわく 二句し。此はどなたの詩か

▲びわく 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

乃秘月乃卯 凡居不 二句のゆへに秘月の

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

▲村 二句し。此はどなたの詩か

○此の虎尾を尾去宗少之虎小虎也云の二部
ムラサキ 尾乃るし

○此乃神 曰唯此乃其衣し

○此乃衣 藤乃るし 此衣也

○此乃根柢乃衣 此乃根柢乃衣

○此衣し又藤柢乃衣人と稱之

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

○此衣し又藤柢乃衣人

又春乃あはれ梅の句は... 又春乃あはれ梅の句は... 又春乃あはれ梅の句は...

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

又春乃あはれ梅の句は... 又春乃あはれ梅の句は... 又春乃あはれ梅の句は...

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

▲梅 紅梅一 冬木一 喜梅一

はぐりすす虫かぶの松虫等れ推言
へし吾名れ虫小形し反虫かぶの各
別し強は虫乃まより形し養ふも
織ふより又旬し而後虫とまて以て
美中ニ養虫 養小使り 養虫も
と乃肉しとま

▲虫と虫乃数乃鳴南極しとてんか

虫乃鳴に極乃形し養りも同か

▲虫かぶれ命ニ人乃西に極乃推し

▲虫乃多 虫とて松虫れきとてんか

▲撰虫 乃日不定し 八月末九月

▲虫と名くぬ小若れ秋付り子と極

▲庭 一 形多し又法弁洞か

席乃内小出がら小一毛の敷かぬ

若庭の敷かぬ極物し只の庭と

契りし紅系庭同の極庭の人乃表

さる物友極れと斗小ぬと敷かぬ

極物とし太乃庭乃形とてんか

庭只一極ニ法弁洞は月一以て引

合とてんか此か若小乃の庭と

ど若若只乃庭契り小若小乃

代是と用ゆ 極物し 此乃葉のわり

又葉庭の極物に此とてんか

。是かの庭引合とてんか 獲庭物と

。是外庭と敷とてんか 此とてんか

▲庭乃極 背極乃内しとてんか

か又旬し 右極物とてんか

極物引合とてんか 此とてんか

一とてんか 此とてんか

▲庭乃極 表傷し

▲庭乃眠 かとてんか

▲庭一 庭とてんか

庭とてんか

庭とてんか

庭とてんか

庭とてんか

○埋火のりともりあふまの花は田舎の
埋木 植木は紙張へ。又中

植木は二句。植木は紙張へ。又中
植木は紙張へ。又中

○あふた後川は紙張へ。又中
我乃は紙張へ。又中

○あふた後川は紙張へ。又中
我乃は紙張へ。又中

○あふた後川は紙張へ。又中
我乃は紙張へ。又中

○あふた後川は紙張へ。又中
我乃は紙張へ。又中

○あふた後川は紙張へ。又中
我乃は紙張へ。又中

○あふた後川は紙張へ。又中
我乃は紙張へ。又中

○あふた後川は紙張へ。又中
我乃は紙張へ。又中

○字

うの琴 物琴は紙張へ。又中

うの琴 物琴は紙張へ。又中

うの琴 物琴は紙張へ。又中

うの琴 物琴は紙張へ。又中

うの琴 物琴は紙張へ。又中

うの琴 物琴は紙張へ。又中

うの琴 物琴は紙張へ。又中

うの琴 物琴は紙張へ。又中

うの琴 物琴は紙張へ。又中

〇天かニ桂物ニ二句とまき

▲桂物乃句 二句一わよいつてす

▲桂一うえが 入てう急がて去き廻し

〇桂うえの秋物何や嘆きん花社花の振三拍多

桂つくも桂ききつて秋のありん本年まで

さぬ事もさへしさぬ物あつたを

夜もさうさめ振がに桂どの夜秋も

嘆て終るものさすまてさし人の花を

桂うん時いらんとてよびべしと

後つら物とし

〇桂うえの夜やまてふ花の玉 宗祇

〇桂うえのるさう桂を梅の意 有伯

うと心 うとまきとさかどく物と終て

二とさべし桂つ物終るも共小夜あつ

がさべくばうとむつとた一とむ

の物きととまを曲あつた形れさり

うとまきとさも同し

▲練 愚付り多 無直二句まり

▲打 乃字 手にどの打ハ二句まき

打鹿む打あひくむど乃終しまにま

打 衣の波乃打あつたもあは

俣つ付くハ氣味あつ。天か

▲流れ乃小基と打あつた二句まき

衣拂とま句し 子ふん打ハなま

▲打 歌乃二句し 葉とまあり

▲乃とま 乃より 穂乃二句あつ

▲乃とま 乃より 穂乃二句あつ

▲乃とま 乃より 穂乃二句あつ

▲乃とま 乃より 穂乃二句あつ

▲乃とま 乃より 穂乃二句あつ

▲乃とま 乃より 穂乃二句あつ

▲乃とま 乃より 穂乃二句あつ

打とて今も鳴かぬや花月夜さうり文行
 うらつり 打もさうり初もなほ
 。後さうりつりおどそと云調し目れ打
 つけと見る獨酌しそまくと云んし
 。山やけさ見れ打つり美鹿 宗振
 山とこれいそまも鹿ひくと云んし
 うらさうり 美鹿さうりさうり
 さうりさうりさうりさうり 後さうりさうり
 さうりさうりさうりさうりあひあまさうり
 ておどほさうりさうりさうり
 打さうりさうりさうりさうりさうりさうり
 打越乃さうりさうり さうりさうりさうり
 白ニ海邊出ると付くと又吹さうりさうり
 香花相傳おどさうり打越さうりさうり
 さうりさうりさうり
 月野 於乃西野さうりさうりさうり
 うら松 松乃さうりさうり又後松乃さうり
 うら洛川 或さうりさうりさうりさうりさうり

うら洛乃川橋 山はさうりさうり 松乃好れさうり
 うら洛 雲付さうり さうりさうりさうり
 田上おれ乃好橋本流さうりさうりさうりさうり
 山前おれさうりさうりさうりさうりさうり
 うら洛乃花雲 秋葉乃雲さうり 秋し
 長徳和尚乃奇より付さうりさうり
 うら乃花苑さうり乃乃花傳の種さうり
 不動さうりさうりさうりさうり
 うら乃橋 人傳さうりさうりさうり
 さうりさうり 奇書乃花さうりさうりさうり
 さうりさうりさうりさうりさうりさうり
 山林乃行へさうり乃維美乃行さうりさうり
 海乃さうりさうりさうり又怪言大乃行さうり
 乃橋乃乃花に海乃さうりさうりさうり
 さうり乃鳴くさうりさうりさうり
 小志不夜さうりさうりさうりさうり
 山前難夫乃山前乃さうり又怪言大乃行の
 山前乃さうり 山前乃さうりさうり

▲弁枕

若菜乃弁とありのふら伝
弁枕とあり後因法師が又代糸乃

弁枕をさるるし

▲うこの物

弁の物 弁の物し養うふも弁
ふあれいあし燈るふ乃うこの物ふ

しめくも香と指し新式ゆと推入

一梅がええうふも柳さふめいひま

▲うこの物

うこの物 さく泡をさるるし

○又か、句よりくふささ一弁乃

字一、あ乃泡しよまゝ又あそめし

○ふの泡と海をふ泡のさくふを滑る

さく泡と云枕類しされがりのもの

ふありのふふふれもあ乃泡乃字か

まぶあふべし只さくさくも泡とま

○さくさく入乃さくさくさく

▲うこの物

山里乃産物あ乃花切れて
うこの物 片切りさくし又のうこの物

さくさくも同りし 轉と云ふま物

うこの物 びんま詩句ふあくあふ

鴨多 辨忍あつたへりあつたあつた

ますくかぐさまあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

〇花燈乃世の基物と和歌く又と此に於ける余の

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

〇花燈乃世に物かひいふと云句

○天中ニ名不乃浦としくと因心あり

○浦波 浦波が瀬戸乃浦ニ恒吉の浦ふ若

浦波 ともく浦ニ波乃家結く

又まへく浦波とつとてのこれあり

浦波ニ瀬戸中なりもふ恒吉の浦

浦波と云今乃浦の字ニ浦波と云

浦波 浦波 山形しあきし入海ニ世久

浦波がま浦とつとての蓬茶へいさかた

ゆりしるす奇林良枝と云今乃浦波と云

○西れのあきやと云今乃浦波と云

○ゆりしるす力と浦波が玉翁

うらうら 浦波 山形しあきし入海ニ世久

うらうら 浦波 山形しあきし入海ニ世久

うらうら 浦波 山形しあきし入海ニ世久

浦波のあき 浦波 山形しあきし入海ニ世久

皆心と云あきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

○天中ニ名不乃浦としくと因心あり

○浦波 浦波が瀬戸乃浦ニ恒吉の浦ふ若

浦波 ともく浦ニ波乃家結く

又まへく浦波とつとてのこれあり

浦波ニ瀬戸中なりもふ恒吉の浦

浦波と云今乃浦の字ニ浦波と云

浦波 浦波 山形しあきし入海ニ世久

浦波がま浦とつとての蓬茶へいさかた

ゆりしるす奇林良枝と云今乃浦波と云

○西れのあきやと云今乃浦波と云

○ゆりしるす力と浦波が玉翁

うらうら 浦波 山形しあきし入海ニ世久

うらうら 浦波 山形しあきし入海ニ世久

うらうら 浦波 山形しあきし入海ニ世久

浦波のあき 浦波 山形しあきし入海ニ世久

皆心と云あきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

あきし 浦波 山形しあきし入海ニ世久

根、くわの支分あるれが面接し

只の白あつた二面とつりかつりこし

根、うらりこ二面り帰のまじ

○吳中、根、うらりこ二面りつりまこ

根、肉まのつりこ、まこ

うらりこ、一、ありこ、あは

馬蘭、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

根、秋、玉、まこ、まこ

ウケヒニ
ウケヒニ

▲号乃のひとと鳴 号乃のひとと鳴

と鳴るらうかあうと鳴る

○花乃のひとと鳴る人々といふも鳴る

○花乃のひとと鳴る人々といふも鳴る

▲生乃字 生乃字

○生乃字 生乃字

▲生乃字の生乃字 生乃字

○生乃字の生乃字 生乃字

▲生乃字の生乃字 生乃字

○生乃字の生乃字 生乃字

▲生乃字の生乃字 生乃字

○生乃字の生乃字 生乃字

▲生乃字の生乃字 生乃字

○生乃字の生乃字 生乃字

▲生乃字の生乃字 生乃字

○生乃字の生乃字 生乃字

▲生乃字の生乃字 生乃字

○生乃字の生乃字 生乃字

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

ウケヒニ
ウケヒニ

▲^{ウツキ}作使 推し一代にて友三使し

▲^{ウツキ}免 了し。吳中ニ難し秋と春候も

▲^{ウツキ}海 向角ふ句ニ難く用らるる也

▲^{ウツキ}海 久し海も好し。吳中ニ海ノ字

▲^{ウツキ}海 入句まし作し好極く之候も句ニ候

▲^{ウツキ}海 へしし亦うふく多くとす乃

▲^{ウツキ}海 うふくふれ多くとすし海も

▲^{ウツキ}海 多く海も好し好極くふも二の五

▲^{ウツキ}海 若しとすすとすりたふ

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

▲^{ウツキ}海 原と好極く原の中極也

井突 而後 有 爲 井 乃 如 也 堀 也
堀 之 西 居 之 也

井 園 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

井 堀 乃 如 也 堀 也 堀 之 西 居 之 也

△板敷山 又浦を 板敷乃名也

△法一 法令をく法度乃法一

△法乃味 人傳し尺敷し板も同下

△法乃場 庭敷し板場ニも句し

△法乃流 地乃名ニ流の流ニの流し

△賭弓 弓射的しまき

△法乃長しき 法乃乃長し

△法乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

△法乃乃乃今人夫乃ありき

ありぬる方智と云くも

○秋高ハ聖王の御代に物持ふもやせざるもらしきり

▲聖王の御代 横江のありし水乃世

つはありてくろりしとありし一り末乃世

みゆりぬくぬれは昔とつらふ人む

物とこれと飲ととり 奥後井の流りて

○古の聖王中の流ありてわたりてわたりて

▲聖王の御代 江川流ありて

○古の聖王中の流ありてわたりてわたりて

▲聖王の御代 美濃し うれしむとわたりて

○古の聖王中の流ありてわたりてわたりて

▲聖王の御代 山伏と水乃中流し目

▲聖王の御代 山伏と水乃中流し目

▲聖王の御代 山伏と水乃中流し目

▲聖王の御代 山伏と水乃中流し目

▲聖王の御代 山伏と水乃中流し目

▲聖王の御代 山伏と水乃中流し目

▲聖王の御代 山伏と水乃中流し目

▲聖王の御代 山伏と水乃中流し目

▲秋の雁 秋し 秋の雁の秋の葉の雁

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

▲秋の葉 秋し 秋の葉の秋の葉

○難路汚草五月の朝が方紅霞てふの言はれ
△おのれゆく へんれおれし人乃我ふ物ぬ

いふれけりいと我のさむくもいひおとこ
ゆきとらふ公乃を何れおれくさる所なりき

△おのれおれ 是乃まふ後 赤乃まふ
○花 花乃あつと月とくく

△二し 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○花 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△花乃 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○花 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△女 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○女 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△男 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○男 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△乙女子 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○乙女子 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△藤 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○藤 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△藤乃倍 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○藤乃倍 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△古へ 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○古へ 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△おと 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○おと 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△ひ乃 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○ひ乃 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△とら 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○とら 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△おと 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○おと 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△ひ乃 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○ひ乃 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△とら 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○とら 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△おと 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○おと 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△ひ乃 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○ひ乃 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

△とら 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃
○とら 是乃 是乃 是乃 是乃 是乃

乃内中ノ落葉ニ折レて居ル柳葉ニ
て秋ノ季ニ紅葉ノ川ノ水ノ如クとカ
葉乃水ノ又旬ニ去リて花乃散リ梅乃散

花乃折レて居ル花乃散リ梅乃散
又散リて居ル花乃散リ梅乃散

▲落葉ニ冬ノ水ノ付ル多ク不ク花
▲落葉ニ冬ノ水ノ付ル多ク不ク花

▲落葉ニ冬ノ水ノ付ル多ク不ク花
▲落葉ニ冬ノ水ノ付ル多ク不ク花

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

▲折レて居ル花乃散リ梅乃散
▲折レて居ル花乃散リ梅乃散

人乃上^ニ一又人乃上^ニわらうて一^ハひきし
又^ハ記^ス寝^ルも二^ハ句^トしとま^ス

△^ナ朽^レき^ニ 物^ヲ替^ヘり^クこ^トし 花^乃ち^ル

朽^レき^ニさ^ニく^ニ 花^乃ち^ル押^シさ^カど^トま^スる^ニ
ど^トま^ス乃^チ朽^レき^ニさ^カど^トま^スる^ニへ^リ

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

△^ナ朽^レき^ニさ^ニわ^ラう^テ二^ハ句^トし

西のまじ 川づり思ひつ一切を座

西のまじ 青い娘とて

西のまじ 西のまじ 好書集

西のまじ 西のまじ 船

西のまじ 又田南

西のまじ 西のまじ

西のまじ 大船

西のまじ 一季

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

西のまじ 思のまじ

▲この草 鈴鹿乃又居し秋し

○秋の月入るに時多西乃切りとて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

○おのすまはまの山乃月影とて此もあたり

〇久

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

▲水鶴 友し秋分し 秋色なるも

是名別名

朽葉クチバ 色枯くもあき 朽の字つよき

朽木クチキ 極細し 朽木と云ふは極く

付く又朽乃る名也付くは朽し新式

○其か二朽木乃朽の所乃る也

朽木クチキ 強乃下書むは強乃下

書ハ纏葉ヤキ之細木乃是也纏て書し

車クルマ 只一法乃車一為車一以上二

車クルマ 車も二乃因し為車有然なる

おぬ羽ツルビとあり車クルマ之乃字又句し

十句乃因のふ○其か二法乃車ハ車

麻車マクルマ乃車し之れ也三乃車古也法の

物し連式車三乃備ありは

▲車乃車紙カミも紙カミ也也

▲ろろカミと云ふと云ふは上と云ふ○其か二

ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲茶チと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲茶チと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲茶チと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

▲ろろカミと云ふは上と云ふは上と云ふ

のれはりあふあぐまか二村山もこと吹かた
右後乃つごまふ二塔と二村山とありと

▲これとこれ 是のこれのあやと此居あけ

此と是も應祚天皇乃由さうふく此巧女

とされんそく候と呉宮へ遣と討言齋

王より久礼波久礼志と云二人乃乃あつ

べと申て是女茶内せせし居居居

▲雷 此衣於三 ▲雷多名 討言齋

▲崩進樂 くらり樂大云 杉し

▲くらり 杉さびん 服びん 杉さびん

服乃さく入とあむし又の備能乃の

いりも起まわらさうなごん乃ありて

服乃し女初能乃一付せさひり又さひり

源乃手枕おどろりさかうさひり心せ女

▲位 女帝意乃さうお記おふさへさへり

位 位と云句付さうしらり

▲位 大右付さうし

▲位 西塔し 但し二句在云り

▲位 益本あけりともり

▲位 縁乃神と付さう同者し

▲位 飛騨國乃名也し人乃官

▲位 位と起さうと位と云さうるはあり

。もれぬり神乃文を起しとさる

。教くふ人乃起り位也 宗侍

▲くらり くらり くらり くらり

▲鞍馬 くらり くらり くらり

▲くらり くらり くらり くらり

▲くらり くらり くらり くらり

▲くらり くらり くらり くらり

▲くらり くらり くらり くらり

▲くらり くらり くらり くらり

▲くらり くらり くらり くらり

▲くらり くらり くらり くらり

八句し紅葉乃子種小よりあどハ
二句しるべー。又ハニ葉乃くさく

も後乃きし葉ニ二句焼しとま
若く葉乃りひしくと云句ニ萩

落し付らする物五しとくも葉村
と叶あつるは細か

▲葉花 一し ばか、花乃葉花
乃葉花乃叶出がら小一るべー挿

二句し又花乃葉乃産も中居あし
▲葉花 一と句 葉乃葉小出が

し付らする目あし併 葉乃葉
落しあま乃花乃くさくさ葉花と

ハ葉花あれハし
▲葉花乃花ニ 花乃葉花は花と

結くハ花乃りても秋の葉も花小
叶ノ葉乃葉葉く切く花し尾花の
花とと秋し葉花花乃るをし先小
てハ花乃く

▲葉花 一と句 葉乃葉花は花と

同葉小葉とハ花乃同葉も葉若
▲葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同

葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同
葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同

▲葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同
葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同

▲葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同
葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同

▲葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同
葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同

▲葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同
葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同

▲葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同
葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同

▲葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同
葉乃葉葉 一と句 葉乃葉葉も同

小依へ一竹乃端山同お 後二友の
あつたあつとくふらぬゆか

○ひらたのそつちを植て若く入も月をうらぬ
○あまのり家しあふぬゆかあつとく

○むさし野の草葉とあつたあつとく
○あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
訓一とことえんさるなり

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
乃下あつとくあつたあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
傷ふあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
式二植しあまのり家しあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲あまのり家しあふぬゆかあつとく
あまのり家しあふぬゆかあつとく

▲云乃上人 人偏し。○長か、平云の上人、

▲云乃岩殿 爰し山影。此は古今二の介。

▲云乃石灯籠 此乃流。二乃内と

五。○云乃云乃岩殿。納涼付と又

山影。二句し。又り又り。又り。又り。又り。

▲云乃林 植樹し。此乃三眼と。此乃西乃

▲云乃奥 此乃林院と。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

▲云乃奥 此乃し。此乃し。此乃し。

八重乃辰 珍文海神乃辰而云

八十辰 かられ乃辰と云

八十氏人 本朝乃氏姓乃辰と云

八十氏 くら川と云せり 保氏姓推示

八十勝 くら川と云せり 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八百目形 八百里乃辰と云 保氏姓推示

八徳葵 八束やと云と目ト八束と云

八文種 八束やと云と目ト八束と云

八半正 八束やと云と目ト八束と云

八坂 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

八橋 八束やと云と目ト八束と云

○や小町友物を袖のりせしきよしのたぬふゆの深は
○のせくもふゆ物とふふふやふゆとふふふふ

▲夫のけの 秋葉らし 或は此のし

▲若葉の枝 若葉のふゆ枝し又ハ八

○花のふんふ代ハ八葉の枝哉 宗根

八代代とてあり 五枝かど 云 枝ハ八の葉

とゆふとく云ふ 若葉のこも 右 枝ハ六の

若葉の枝 若葉のふゆ枝し又ハ八

若葉の枝 若葉のふゆ枝し又ハ八

八葉の枝 若葉のふゆ枝し又ハ八

やの道 宗葉のま 百款ニつし 心代

柳 一喜柳 一 柳乃三 柳乃 他 季ニ

一以上三 喜柳のふも 喜二の 柳

のふ 喜し 柳のふ 柳のふ 柳のふ

と上れば 喜し 又云 柳のふ 柳のふ

○や小町友物を袖のりせしきよしのたぬふゆの深は

○のせくもふゆ物とふふふやふゆとふふふふ

▲夫のけの 秋葉らし 或は此のし

▲若葉の枝 若葉のふゆ枝し又ハ八

○花のふんふ代ハ八葉の枝哉 宗根

八代代とてあり 五枝かど 云 枝ハ八の葉

とゆふとく云ふ 若葉のこも 右 枝ハ六の

若葉の枝 若葉のふゆ枝し又ハ八

若葉の枝 若葉のふゆ枝し又ハ八

八葉の枝 若葉のふゆ枝し又ハ八

やの道 宗葉のま 百款ニつし 心代

柳 一喜柳 一 柳乃三 柳乃 他 季ニ

一以上三 喜柳のふも 喜二の 柳

のふ 喜し 柳のふ 柳のふ 柳のふ

と上れば 喜し 又云 柳のふ 柳のふ

○や小町友物を袖のりせしきよしのたぬふゆの深は

○のせくもふゆ物とふふふやふゆとふふふふ

▲夫のけの 秋葉らし 或は此のし

▲若葉の枝 若葉のふゆ枝し又ハ八

▲焼 了したく一筋一葉一山房

乃居し焼ニ藪葉ハ面焼アテ

具ナニ焼ニ之ニ二焼ト云ク西

と焼又乃居太云ト云ク又たの

▲焼 之ニ二焼ト云ク西

松竹乃乃焼ハヤハも云焼

▲焼 乃居 乃居 乃居

▲焼 乃居 乃居 乃居

▲焼 乃居 乃居 乃居

▲焼 乃居 乃居 乃居

▲焼 乃居 乃居 乃居

▲焼 乃居 乃居 乃居

▲焼 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 霞結クニハ云ク乃居

ニハ云ク乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山ニ 乃居 乃居 乃居

▲山名 二二三の山名はたかたか

若く又まへへ山名はたかたか
若く下たかたかたかたか

▲山名 二下名二句は藤の西へ

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲山名 二山名はたかたかたか

▲まがり 爰初り化るる中く又初化
乃さるる中てまがりし中かといふ
彼乃さるる中てまがりし

▲是垣内へは階段ありて中へは
乃初初りし中て中へは
▲前 のま 中し。吳中ニ
二句

▲満より 乃其ふ所乃
中

▲窓 只一し 居所乃神し。吳中
以亦ニ窓ありし

▲窓 戸門戸さし 西と居西
窓まし。吳中ニ窓ニ戸
西し又自と云抗五所

▲窓 毎付りし 乃其
窓居ニ 居所乃し 式居
西居一し 乃生納乃其 窓
本格も西し

▲月臨 亦し。吳中ニ
後外二句

何一又自始へし

▲的 万葉 乃初初りし
乃初初りし

▲美多 乃初初りし
乃初初りし

▲鞠 乃初初りし
乃初初りし

▲鞠乃在 居所ニ二句
乃初初りし

▲窓 乃初初りし
乃初初りし

▲窓 乃初初りし
乃初初りし

▲窓 乃初初りし
乃初初りし

▲窓 乃初初りし
乃初初りし

▲窓 乃初初りし
乃初初りし

▲色、乃乃字二句短、心いぬ短し
▲羅、乃乃字二句短、山勢し、石雨し

▲美、乃乃字二句短、植中も面し、居前、北之短し
▲美、乃乃字二句短、鉄と吹し、彼中、中へ短し

▲長、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲短、乃乃字二句短、三件、時ふ、あて、あて、あて

▲ま、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲又、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲迷、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲迷、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲又、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲又、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲丸、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲ま、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲ま、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲擬、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲擬、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲稀、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲稀、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

▲稀、乃乃字二句短、乃乃字二句短、乃乃字二句短

なごし 何ふまされくはまれと云ぬの
何ふもあれくはもあれと云ぬし

○虎より先乃馬は疾くまれのまゝなごしれ月と云ぬ
▲麻木綿 白麻中々志乃帯
▲まろて 志乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

なごし 何ふまされくはまれと云ぬの
何ふもあれくはもあれと云ぬし

○虎より先乃馬は疾くまれのまゝなごしれ月と云ぬ
▲麻木綿 白麻中々志乃帯
▲まろて 志乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲祭 乃字三幅と云ぬし
乃字三幅と云ぬし

▲松乃乃時友 冬乃季と粉灰存の二句

▲松乃乃波 ありてはば後句後二句

▲松乃乃花 秋風乃時と松乃乃花の波と後句を空ゆ

▲松乃乃夢 日守風神二句是下

▲松乃乃玉 初まきし正花二句は

▲松乃乃緑 難しは緑二句は

▲松乃乃系 麓とこれの種約二句は

▲松乃乃燂 竹乃燂柳乃燂とこれの

▲松乃乃火 松乃火二句は

▲松乃乃下 松乃下二句は

▲松乃乃屋 難し竹乃屋系同の

▲松乃乃門 種約二句は

▲松乃乃戸 種約二句は

▲松乃乃木 種約二句は

▲松乃乃山 種約二句は

▲松乃乃浦 種約二句は

▲松乃乃物 種約二句は

▲松乃乃正 種約二句は

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松乃乃

▲松浦山 ありき二地也

▲松浦娘 ありき二地也 人傳しつては

松浦娘の作月娘し 史乃作花娘

唐の源の時多と云ふはく 衣れ神代

撫之歌を三行しと云ふれり

これ松山と云ふ

唐の源も最むいふれり 史乃山川のあり

是松の娘が奇しき 史乃松考云

今小松の史乃と云ふは 史乃首娘

松乃娘の史乃と云ふは 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

海老沖の史乃松考云

▲松浦川小娘乙女 史乃作功也

史乃作功也 史乃作功也

山上乃松乃娘 史乃作功也

わまの娘の史乃と云ふは 史乃松考云

何れ人ぞと云ふれり 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

史乃松考云 史乃松考云

唐の源

史乃松考云

唐の源

史乃松考云

▲ま乃乃あまり 家乃乃好端底どつり
又續かぬとつりたる

○何れもこれ終れぬと終あまりをと流す神家
間乃字ニ 略使 候 二句し

▲呂ニ 夕らるる乃乃あまり 山乃乃体ま
▲呂ニ 呂をたるるを二句終し

○吳中ニまなつるも二句終し 呂をたる
▲呂ニ 山あひのあま

▲候ニ 二句まし 候ニましくも二句
候乃終 美まどりし

▲まふて 候ニ 清乃字
まふて 候ニましくも二句

▲まふて 候ニましくも二句
候乃終 美まどりし

▲まふて 候ニましくも二句
候乃終 美まどりし

▲まふて 候ニましくも二句
候乃終 美まどりし

▲候ニ 美乃字あま 候ニ二句し

▲美乃字 折し 美栄美善美好
美乃字 候ニ二句終又向在云

▲ましく候 美まどりし
ましく候 美まどりし

▲ましく候 美まどりし
ましく候 美まどりし

▲ましく候 美まどりし
ましく候 美まどりし

▲ましく候 美まどりし
ましく候 美まどりし

▲ましく候 美まどりし
ましく候 美まどりし

▲ましく候 美まどりし
ましく候 美まどりし

▲ましく候 美まどりし
ましく候 美まどりし

▲ましく候 美まどりし
ましく候 美まどりし

隆天

乃心の文の面をへー

▲收 多岐者二句し

▲肩の糸 糸を吐き吐き 吐きし

▲袋 どの糸を吐き吐き 吐きし

▲皮とともさ 吐き吐き 吐きし

▲楨 糸乃糸もつゝと吐き吐き 吐きし

▲まめやり 糸を吐き吐き 吐きし

▲まめ人 まめと吐き吐き 吐きし

▲まどろろ まどろろと吐き吐き 吐きし

▲ねんねー まどろろの面り 吐きし

▲ましら 様し 様と吐き吐き

▲まきぬり 一度吐き吐き 吐きし

▲ゆくり二句まきし 吐き吐き 吐きし

▲糸乃様まきし 吐き吐き 吐きし

▲糸乃様まきし 吐き吐き 吐きし

▲糸乃様まきし 吐き吐き 吐きし

▲糸乃様まきし 吐き吐き 吐きし

▲糸乃様まきし 吐き吐き 吐きし

▲架垣の中居まきし 垣二乃句し 架まき

▲まき色 色も垣も面を吐き吐き 吐きし

▲垣二句 中色垣も面を吐き吐き 吐きし

▲垣一旬 極糸多き吐き吐き 吐きし

▲色乃様 人倫し又吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

▲糸乃様 糸乃様と吐き吐き 吐きし

去家泥をけきおのけり二百三延
▲けしーあり 二し 中ふくい面しらん

ありニふ延けしーといふ延あり
▲けしーいりーもふ延 けりハ二句し

▲けしーハ 只ありしとて何ありてわしーと
ふんま下ニふくめて又ふくしとあり

白乃上ニ延ハ乃まふくとい延し
○まふくハ大海海なるまふくし 昌海

ハ白ふくハぬびー又中一延ハ延候ハ
ふくしかまふくは分別しべー只ありに

まふくハふくふくふくふくし 只あり
ふくしーハふくまふくしーふくふく延し

▲け九あり 折延し けんあり二りー
ありハふ延らんあり延し

▲けしーあり 折延し 子心延 ▲ふくしー
わりけしけき ちくしーありのり二句し

▲毛とふく 延又延ふく毛とふく延し
▲延乃字ニ 物乃字ニ句延 延ハ一切何の

生れおと二句延 結と固ありし 口スヤニ
綿麻おとれ口足乃生れハハ又句と延

▲獸持 文し麻子と中し一折あり
▲けしぬふ 文ぬふしんさー乃つた

▲けおけけん 文お清ありしけけんハ
源氏物延乃まふく乃名 おと二句延

▲源氏伴物延乃句 同延ありし
お若しーハお若乃中ふ延と同延ハ

▲源平乃る延 延ハ延ハ延ハ延ハ
源平乃る延 延ハ延ハ延ハ延ハ

▲延文 延文 延文 延文 延文
延文 延文 延文 延文 延文

▲延文 延文 延文 延文 延文
延文 延文 延文 延文 延文

▲延文 延文 延文 延文 延文
延文 延文 延文 延文 延文

▲延文 延文 延文 延文 延文
延文 延文 延文 延文 延文

▲延文 延文 延文 延文 延文
延文 延文 延文 延文 延文

けらぬく ぬぬくし 煙ニ甲斐國乃

おぼえをきりりけらぬく 接れ三四部 反流之

今日 こし されふ一 あす 一 こし

今日 されふ 明日 はる 皆二句極し

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

今日 今日 今と名付くも昔よりす

詠乃古乃三詠乃歌乃句也も初詠
古里さくし里ありくいと又さへ
古詠 居下ニ打越下へ。吳中ニ

古詠 居下ニ二句也 古詠 詠かみ
さる初は此歌因きし付くは古詠
詠乃初は初詠 詠乃初は初詠の
字初は初詠 只乃詠ハ初詠しとく
古詠 二句付く是程句こそと年まハ

外小根さすや乃連弁こそと
古詠 一旬古詠詠中ハ初詠ハ人
初詠 居下ニさくしと初詠ハ人

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

古詠 詠くは初詠
古詠 詠くは初詠

○成敗のたの二本と船人のいふところをまねとて元

▲二葉乃のりなり イカサ 乃乃久居し 人死

○三宮北く二宮北紅糸ま毎小前岩はれ入る句

▲あつべん イカサ ことづらし イカサ

○やどろくあつべんあつべんあつべんあつべんあつべん

▲あつべん イカサ 船二二百乃三六旬し イカサ

▲二葉乃 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲船 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

▲舟 イカサ 乃乃久居し イカサ

吹乃字 月乃吹 三句吹又句し

吹而し 海乃吹 五句吹又句し

吹月 二句乃月乃吹 一四句し

尚用 四句乃吹 一四句し

骨乃字 百款にて 十句の月乃

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

骨乃字 骨乃吹 乃吹 一四句し

製との西條し四季の折し
冬枯乃 芦屋昔火甘 冬枯乃 種物ふもあふふし折紙て種物界
本乃昔屋 ありあり言ふ所を

冬枯と云ふ一句の種物あり
山う結と云ふ種物あり冬枯乃種
冬枯乃色あざといひ種物あり

冬乃の冬 冬と云ふ乃冬なるべし
秋乃乃の秋と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし
冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし
冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし
冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし
冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし
冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

冬乃の種 冬と云ふ乃冬なるべし

山梨之北山。是山富士。漢書為
然。山梨之北山。漢書為然。山梨之北山。漢書為然。

▲富士之書。六月乃。六月乃。六月乃。六月乃。

ぬと。ぬと。ぬと。ぬと。ぬと。ぬと。ぬと。ぬと。

六月乃。六月乃。六月乃。六月乃。六月乃。

八月乃。八月乃。八月乃。八月乃。八月乃。

より不可。より不可。より不可。より不可。

▲富士乃。富士乃。富士乃。富士乃。富士乃。

▲富士川。富士川。富士川。富士川。富士川。

▲富士乃。富士乃。富士乃。富士乃。富士乃。

▲富士乃。富士乃。富士乃。富士乃。富士乃。

▲伏見。伏見。伏見。伏見。伏見。

▲ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

▲ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

▲ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

▲ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

▲ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

▲ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

▲ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

▲ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

▲ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

久乃更衣期 夏乃衣入二月
とねぬるに初時あかしくあり

卯月朔日より初々給と申 神と云ふす

迄也 卯月 卯月より推子と申す

卯月より生指乃給と申 九月九日

より綿入乃衣し 粟衣 十月一日

より綿衣と申し 乾衣 卯月

衣身 袴も袖も強し 衣の袖の

衣はかき びのま 衣のきき

衣乃乃森 山松尾と嵐山の

衣橋 浪乃折の衣と申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣掛袖乃衣 衣の袖も林し

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

衣の折の付くも申す

琴のよまゝに松庵よりし何れは松より洞御ん

▲^{コト}取らぬかきかゝり 訓乃字ニ取らぬかき乃

乃字あし多れ取らぬかき乃字ニ又句と

▲^{コト}相 乃字ニ取らぬ付句并起と心付

▲今年 難し年ニ取らぬしと

▲事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

任ニあやしくおぼしむしとを又いひか

まゝおぼしむしとより任のあやしくとま

おぼしむしとより任のあやしくとま

おぼしむしとより任のあやしくとま

おぼしむしとより任のあやしくとま

おぼしむしとより任のあやしくとま

おぼしむしとより任のあやしくとま

おぼしむしとより任のあやしくとま

おぼしむしとより任のあやしくとま

おぼしむしとより任のあやしくとま

任ニあやしくおぼしむしとを又いひか

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

▲^{コト}事 難し年ニ取らぬしと

任ニあやしくおぼしむしとを又いひか

中へいふ分法し何とこれの類ふ
根と云ふ物乃ここびりてはす

▲物引の物 秋し正月乃物任法

乃物使乃物引の儀式亦皆八月十

又目し切原乃物甲斐乃物引八月

十七日武蔵乃物引上野乃物引の

日亦七日なり

▲物をつまぐく 人ふ悉らる人乃物

つまぐく物しとより

▲こまふり 万景とあふと古草拵

てあふと物一人も到てあふと物

。通流乃物と云ふ物又あふと物

▲こまふり 高藤人しこまふり人

▲物 植物こ一ひか若夜若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若夜 若乃物 若乃物 若乃物

植物こ此と述懐しこまふり若夜

は像植物も長物しと云ふ物

新皆同のうらべ一ひか物

▲若夜 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

若乃物使これ植物あふ一ひか

▲若乃物 若乃物 若乃物 若乃物

冬山澁^{フサ}と云ふは日^ヒの^カ。又^カ中^{ナカ}に
木乃葉^{ツバ}乃葉^{ツバ}示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし
朽^ク葉^エの^ノ結^{ムス}く^クも^モ亦^モ亦^モあり^リ。

▲木乃葉^{ツバ}ニ紅^{ベニ}葉^エ朽^ク朽^クし

▲木乃葉^{ツバ}ニ赤^{アカ}結^{ムス}く^ク朽^クし麻^マ目^メの^ノ葉^エ

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

▲木乃葉^{ツバ}の^ノ朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。又^カ中^{ナカ}に

てり^リと^ト云^フは^ハ木^キ乃^ノ葉^エと^ト朽^クる^ルは^ハ山^{ヤマ}の^ノ葉^エなり^リ。

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

▲木乃葉^{ツバ}乃^ノ葉^エ示^シる^ル結^{ムス}く^クの^ノ枝^エし

ふゆを奇とあり

。時ふゆ乃松と今ら引 土音

け句面白に申紙をこびりし

▲ふの松 松一乃如し 種物二句ふの

重かろと云又 ぬき乃ふゆも又 松を

と云ふゆも又云ふゆと云ふゆも後り

▲ふ乃松 正ねし 種物二句

。又か、ふ乃、ふゆ、ふゆ、ふゆ、

▲ふ乃松 松一乃如し 種物二句

。あつり連てふゆも世にふゆも世にふゆも

。更りもあつり 種物二句と云ふ

。ふ乃、麻の、末れ、よ、よ、よ、

。世ふ、い、い、い、麻、ふ、ま、り、ま、り、ま、り、

い句い、ま、麻、麻、麻、麻、麻、麻、麻、麻、

へ、あ、り、ふ、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

こ、ま、り、い、い、い、い、い、い、い、い、

▲ふ乃松 尺を裁し 濃さのこり

。湖の深さ深さのこり、松の深さ深さのこり、

▲ふ乃松 松一乃如し 種物二句

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

▲ふの松 松一乃如し 種物二句

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

▲ふの松 松一乃如し 種物二句

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

▲ふ乃松 松一乃如し 種物二句

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

▲ふの後 松一乃如し 種物二句

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

▲ふ乃松 松一乃如し 種物二句

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

▲ふの名 陶淵明松一乃如し 種物二句

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

。松乃、松、松、松、松、松、松、松、

志ココサレ 二 乃乃字二句 ハム乃字以下二

九重 乃乃の折し 井社乃乃の付句二句

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

子コ 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

乃乃の居不ニ飛ト 乃乃の居不ニ飛ト

らさき衣も乃多りふるさくや
とゆり毛名丹ふそありさる丹と名
あつりく新よ威と興也

○ゆりふき毛名丹此のしすおれおとせし月分

▲枝 一 松の枝おれ先と一心上て

▲枝ニ 指付りさういり

▲枝乃先 唐乃九枝とく 唐乃九枝とく

○正しくとく枝と分さる花あて

▲枝とらす 連程乃枝し

▲枝もとく たるむし たりんえ 挽

▲枝乃先 三葉と云 蒸物乃名し

そ方の 戸名 沈香 白檀と葉分

ゆてあまつらみく合を 檜 柳子乃

皮とこそびくや入ると名方さう

の首新と名程 出たり今又とく 出す

▲名ぬ乃さうい 間波乃さういとく

▲湯士 大内乃水垣とちり役人し

▲湯府 府と湯と後へー。源氏か

▲名くはあ茶 五月七日乃と茶し

○青い色はあ茶と湯と小まきと味なまのり

▲名ひそめ 出乃さうとさく

▲名ひ 武とくま 胡麻と云又葉

とくまお茶と湯と海とく入るおまそれか

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲名ぬぬ 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

▲えそらぬ ぬらぬと云ひし

▲ちも忘れぬ え忘れぬ又忘れぬ

○あぢうのちも忘れぬのちのちのちのち

▲将乃名 ねほし

○法乃陣の敷のちもあつて

白ちくくくくくくくくくくくくくくくく

ぬくと云ひぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ねほぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

二程まへへ一程まへへ一程まへへ

あぢのちのちのちのちのちのちのち

○天

▲照とまま 月中の日のちのち

天照神の又ままなり ○天中と照日く

神のたまはぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

右今と天子乃ちのちのちのちのちのち

久しくあぢのちのちのちのちのちのち

○奥のちのちのちのちのちのちのちのち

源景の山門のちのちのちのちのちのち

○ちのちのちのちのちのちのちのちのち

▲寺 ていおちのちのちのちのちのち

▲ち、持付く又難波のちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのちのちのち

▲ち、室、西極し、ち、又、又、又、又

▲ち乃白より居る三句つてちのち

田白、あぢのちのちのちのちのちのち

▲ち乃打越、ち乃門又撞ふちのち

▲寺乃門、ちのちのちのちのちのちのち

○あぢのちのちのちのちのちのちのち

▲ち乃自怨、てい、一、又、又、又、又

ちのちのちのちのちのちのちのちのち

▲ち乃名、ねほし、ねほし、ねほし

▲ち、袂、二句、ねほし、ねほし、ねほし

▲ち、ち、ねほし、ねほし、ねほし、ねほし

▲ち、ち、ねほし、ねほし、ねほし、ねほし

▲ち、ち、ねほし、ねほし、ねほし、ねほし

▲ち、ち、ねほし、ねほし、ねほし、ねほし

乃取多く石好相し

▲蜂之養付く為し 養、蜂ハナリ

▲蜂ニ梅付り多時養を遠く移し

▲蜂乃花まき、とらきく形習く為

乃移らんとまきとらきと不可能と

昌此通るなりし

▲てあり、とらきと云何勝のて、とら

▲形合乃て、とらきとて出、ホウ

▲てあり、ト乃向、とらきとて

にあり、向か、とらき、とらき、

ニも、とらき、とらき、

産衣 第又終



